

機能的形質に基づく 動物プランクトン群集の長期変化

金 東佑 Kim Dongwoo

北海道大学 大学院 水産科学院

プランクトン教室 博士課程2年

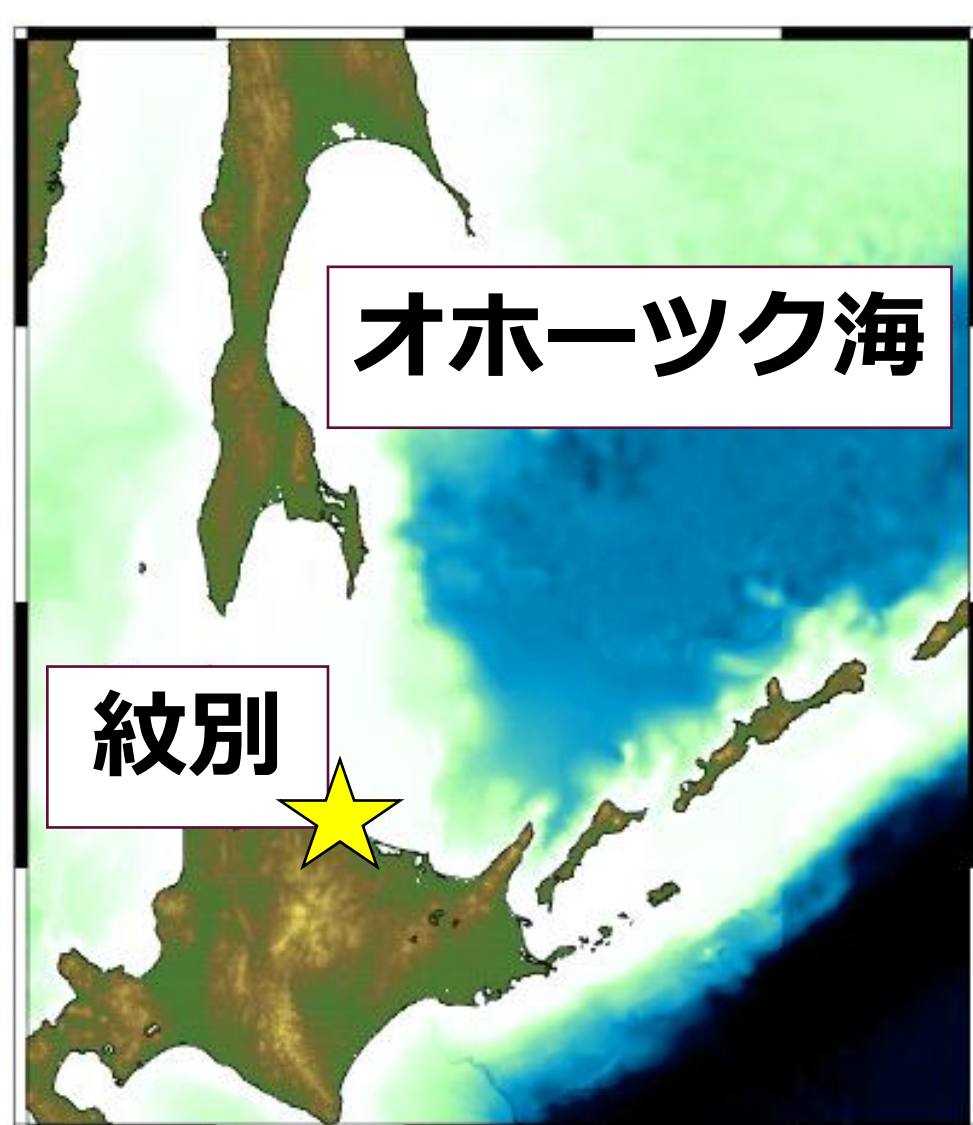


未来社会のあるべきかたち

- ◆ 気候変動による海洋プランクトンの変化を究明
- ◆ 最適なサケ稚魚の放流時期を探り、資源を守る
- ◆ グローバル研究連携、未来の海と社会を豊かに

機能的形質とは何か

機能的形質は、生物の成長、繁殖、および生存に関わる形態・生理的特性（サイズ・摂餌戦略など）であり、将来の環境に対する生物群集の変動を予測できる。



南部オホーツク海の紋別は水産資源（サケマス）が豊富な海域だが、気候変動により深刻な被害を受けている。

動物プランクトンは一次生産と高次生産を結び、環境変化に敏感に反応することで、海洋生態系の評価指数となる。

本研究は、長期間（1997～2025）にわたる動物プランクトン群集の機能的形質の変化を究明し、海洋生態系に与える影響を明らかにすることを目的とする。

